

平成28年9月27日

## 平成28年度 第1回学校関係者評価書

南アルプス市立若草小学校  
校長 澤登 一浩

〔会議日時〕 平成28年9月12日（月）午後7時00分～午後8時30分

〔会議場所〕 若草小学校 校長室

〔出席者〕

・学校関係者評価委員4名

小池 康郎さん（若草地区自治会連合会長 十日市場自治会長）

塚原 久美子さん（主任児童委員、学校評議員）

小林 英樹さん（PTA会長、学校評議員）

松原 由美さん（PTA副会長、学校評議員）

・学校側3名

澤登 一浩（校長）

横小路 豊（教頭）

小田切 英史（主幹教諭）

### 1 学校からの説明事項

第1回学校評価、各アンケートの集計結果について

- ①児童アンケート内容及び集計結果・考察・改善策について
- ②保護者アンケート内容及び集計結果・考察・改善策について
- ③教職員アンケート内容及び集計結果・考察・改善策について

### 2 意見交換

（1）学校評価のアンケート結果から

学校関係者評価委員より、学校評価結果について意見をいただいた。

主な意見は、次のようなものである。

**児童アンケート結果・考察に関わって**

- ①いじめや悪いことをしている人を見ても、教員や友達に積極的に言えないでいる児童がいることに関して感じたことは、見かけたことを教員や友達に言うことによつて、その矛先が自分に向けられることへの恐れがあるのではないか。
- ②家庭学習については、共稼ぎの保護者が多く、特に低学年の場合は、親がかかわりをもってやらせないとなかなかやらないのではないか。
- ③あいさつについては、地域のつながりが希薄で、気まずいところは、地域でのあいさつがなかなかできないだろう。積極的にあいさつしてくる児童も中にはいる。児童の方は、集団でいるとあいさつしやすいようだ。
- ④あいさつは、児童が集団でいると大きい声でやってくれる。月曜日は、休み明けで（どんよりした気分？）声が小さい。夏休み明けは、「さあ、やるぞ。」と大きな声で言えた。

- ⑤登校時のあいさつの様子は、寺部の子（学校に近い子）は、元気がいいが、下今井の子（学校から遠い子）は疲れてしまって元気がない。

#### 保護者アンケート結果・考察に関わって

- ①困った時に誰かに相談できるかについては、高学年になると、親（特に父親）には相談がなくなってくる。相談を受けた場合は、すぐに「ダメ」と否定するのではなく、話をよく聞いて、何に注意したらよいのかを話し合うようにするとよい。
- ②スマホや携帯については、塾等のお迎えで必要性があれば買うこともよいだろう。ただし、必要性がなければ買わない方がよい。

#### 教職員アンケート結果・考察に関わって

- ①特別支援教育とは、どういう教育なのか。（質問）

○学校からの説明

⇒今は、「はっきりした障害ではなく」広い意味（キレル、コミュニケーション障害、自閉傾向等）で、情緒的に集団となじんでいけない児童等の支援についても含んでの、支援が必要な児童等への教育を指して言う。

⇒接し方や指導の仕方、声掛け等でどのような言葉がけが有効かを研修等で積んでいる。

⇒特別支援を必要としている児童の数が増えており、正直、人が足りない。気分的に落ち着かなくなると、教室を出たような場合、担任がその子を追いかけていくと、学級の他の子への指導ができないこととなり、どこの小学校でも難儀している。

⇒教員にも専門性が求められている。法律が改正され、障害のある人が、ない人と一緒に学ぶ、インクルーシブ教育が進められている。社会に適應できるように特別支援教育を進めていくことは難しいというのは、教員の正直な想い。指導に困難を抱えた場合、まじめな教員ほど自分自身を追い詰めてしまうことがある。その中で、南アルプス市は特別支援へのサポートが厚い方である。

## (2) 教育活動について

教育活動について、次のような質問をいただいた。

質問と学校からの説明は、次のようなものである。

- ①学童をまとめて、若小の中につくる計画について

⇒現時点では、体育館の南のところに、来年度建てる予定。再来年度から受け入れ開始。

- ②学童建設に伴って、自然観察園はなくなるのか。

⇒なくなるらない。使われなくなった場所を使い建設する。

- ③外トイレはどうなるのか。

⇒一度つぶして、新しくする。

- ⑤夜間照明のLED化は？

⇒現在の照明が暗く、老朽化が進んでいるので、電柱ごとLED照明を新設する。

平成28年度第2回学校関係者評価委員会では、以上のような意見をいただいた。  
学校評価をふまえ、今年度の重点目標

○すべての児童が、学校が楽しいと思えるような学校づくりを進める。

- ・児童会活動の取り組みを活かし、一人ひとりの児童のよさを認める活動を進める。
- ・マイナス傾向の児童にしっかりと目を向け、個別の支援や助言を行っていく。

○PTAや地域の方々とも協力して、あいさつ運動を進めていく。

- ・児童会を中心に、今まで以上にあいさつ運動の取り組みを進めていく。
- ・校内のあいさつ運動と連携し、保護者や地域にもあいさつ運動のお願いをしていく。

○授業中の発言や質問または意見を言う機会を増やし、発表しやすい環境づくりに努める。

- ・授業の中で、発言する活動を今まで以上に取り入れていく。
- ・校内研究と連動した取り組みの中で、「学び合い」の場面における、主体的な学び、対話的な学びが行われるような授業を意図的に仕組んでいく。

○家庭学習を充実させる。

- ・家庭学習強化週間を有効に活用し、子どもたちの習慣化につなげる。
- ・学年や学級単位で、家庭学習の内容を工夫し、基礎・基本の定着や、家庭教育の時間の確保を行っていく。

○いじめは絶対に許さないという毅然とした態度で指導にあたる。

- ・いじめ撲滅宣言などの取り組みを、児童会が中心となり全校で進めていく。
- ・いじめのない学級づくりの取り組みを、お便りや部会の中で保護者に伝えていく。

について、取組をしていただきたいという意見をいただいた。この重点目標の達成に向けて努力していきたい。